

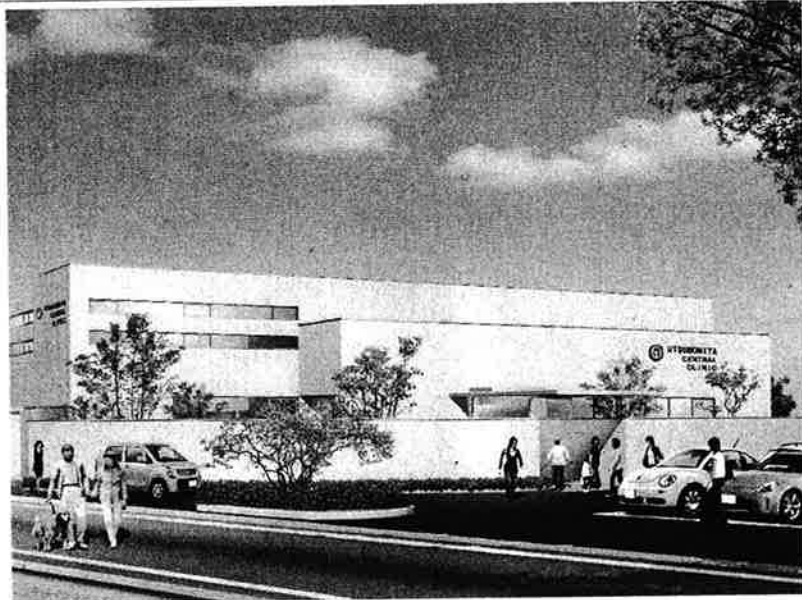
北関東初 女性専用の検査棟

宇都宮のクリニック、11月開設

予防医学に力を入れる「宇都宮セントラルクリニック」(宇都宮市)は今年11月、北関東初となる乳がん検査を主体とした女性専用の検査棟を開設する。サロンのような癒やし空間で人間ドックを受けられるほか、痛みが少なく、発見率90%以上の最新鋭の乳がん検査機器を導入し、乳腺専門外来も設置する。米女優アンジェリーナ・ジョリーさんが遺伝子診断に基づいて乳房を切除したことで乳がんへの関心が世界的に高まる中、佐藤俊彦理事は「県内の乳がん検診率を上げる一助になれば」と期待を込める。

乳がん発見、最新機器導入

乳がんの検査機器で一般的なものマンモグラフィは、胸を機械で上下から圧迫し、2次元の断面画像に取って診断する。約20%の乳がんが見落とされ、約10%が再検査を要求されるといわれるが、検査時の胸の痛み



11月に開設予定の女性専用の検査棟のイメージ



宇都宮セントラルクリニックが導入する最新鋭の乳がん検査機器PEM。胸の上下に軽く触れる程度で検査できる

データでは、乳がんは1996年以降、女性がかかるがんの第1位を占め続けている。20歳過ぎから徐々に増え始め、40〜50歳代にピークを迎える。発見が遅れば乳房の切除や落命にもつながるため、検診ではマンモグラフィにMRI(磁気共鳴画像装置)など、複数の画像診断を組み合わせて発見率の向上に努めている。

クリニックは昨秋、乳房の3D断面画像を撮れるように改良されたマンモグラフィ「トモシンセシス」を

常備したが、検査棟の開設に伴い、さらに発見率の高い「PEM(陽電子放射乳房撮影)」の導入を決めた。全身用のがん検査機器「PET(陽電子放射断層撮影)」を乳腺専用に応用した最新鋭の機器で、世界にも約70施設にあるだけだ。

PEMは、胸の上下に軽く触れる程度で検診時の痛みは少ない。1〜2ミリの病変まではっきりと映し出すことができ、がんの発見率は91%。乳房の温存手術をした患者が再撮影すれば、

術後の経過も詳細に見られる。既にクリニック内で利用されている。自由診療で1回約6万円かかるが、7月以降には、保険適用の申請もするという。

女性専用の検査棟は別名「プレストセンター」として、県内の乳がん検査・治療の拠点にし、大病院や総合病院からの患者の受け入れ体制も強化したい考えだ。佐藤理事は「乳がんの予防と治療、術後のフォローアップに大いに役立てたい」と意気込んでいる。